

# 第3回矢部川学識者懇談会

直轄管理区間における  
整備計画の目標に対する対応方針(案)について  
(環境)

# 河川区分について (第1回矢部川学識者懇談会資料より)



# 環境の現状と課題、目標について（第1回矢部川学識者懇談会資料より）

## 【環境の現状と課題】

### ◆河川環境(動植物の生息、生育、繁殖環境)

- ・下流部:有明海特有の貴重な汽水環境の保全
- ・中流部1:特定外来生物のブラジルチドメグサが繁茂している。【課題】  
ワンドをとりまく豊かな自然環境の保全
- ・中流部2:アユの産卵場、チスジノリの生息場となっている瀬・淵及び河畔林、ゲンジボタルの生息場の保全

### ◆水質

- ・全川的に概ね環境基準値を満足している。ただし支川飯江川において湛水の影響で夏場に環境基準値を超える場合がある。【課題】

### ◆河川利用

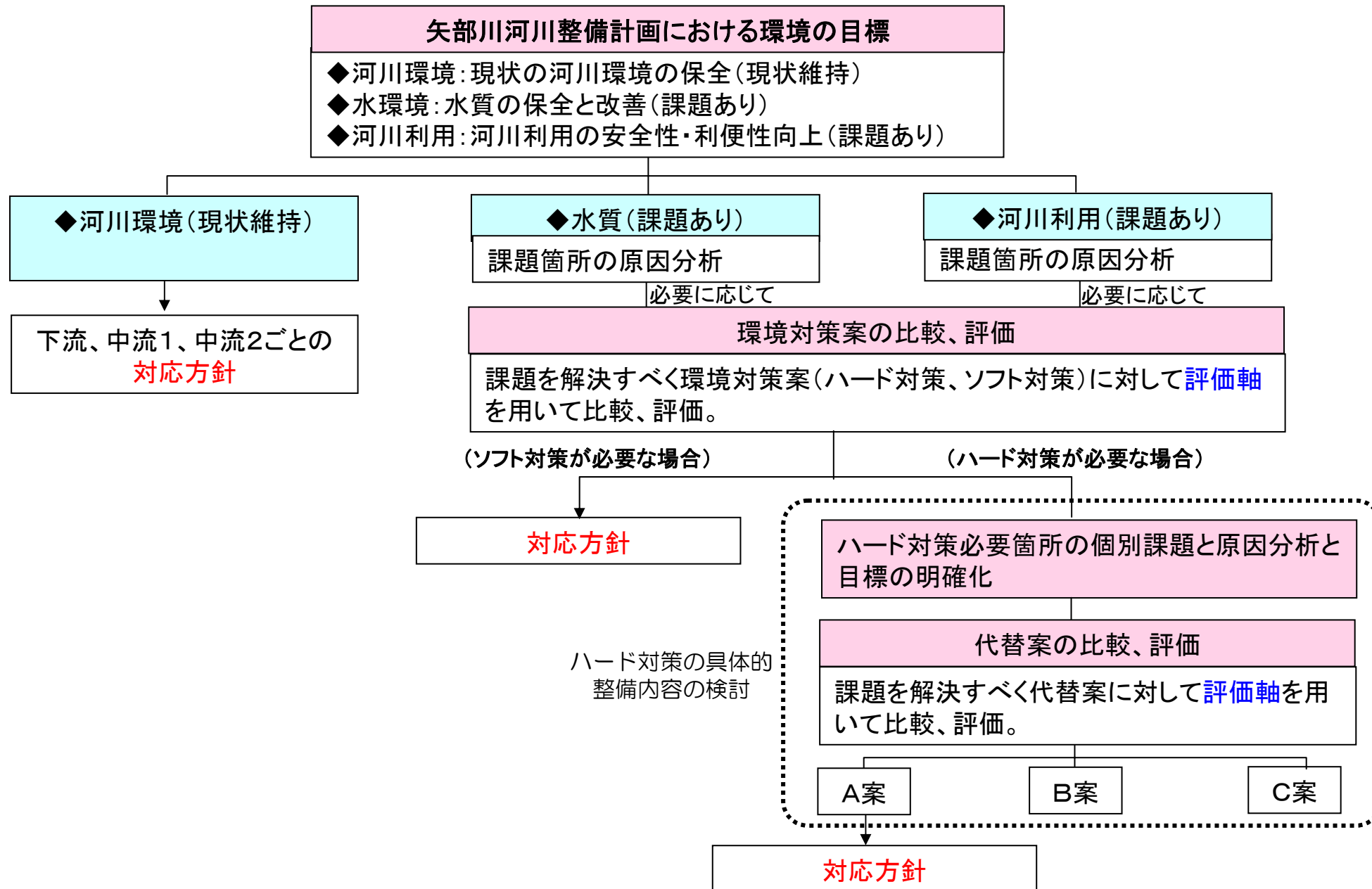
- ・中流部1:・筑後広域公園の整備(県)や九州新幹線の開業などに伴い、当該箇所は今後さらなる河川利用の増加が見込まれるが、河川内を安全に行き来出来るアクセス道路が無い。また、一旦、川の中に落ちると陸への避難が困難。【課題】  
・管理用道路がないため、ゴミの撤去や浚渫土砂の撤去が困難。【課題】
- ・中流部2:・筑後広域公園の整備(県)や九州新幹線の開業などに伴い、当該箇所は今後さらなる河川利用の増加が見込まれるが、河川内を安全に行き来出来るアクセス道路が無い。また、一旦、川の中に落ちると陸への避難が困難。【課題】

## 【環境の政策目標】

- ◆河川環境:河川環境の保全
- ◆水環境 :水質の保全及び改善
- ◆河川利用:河川利用の安全性・利便性の向上

# 環境の現状と課題、目標について（第2回矢部川学識者懇談会資料より）

## 【環境の目標に対する対応方針の検討フロー】

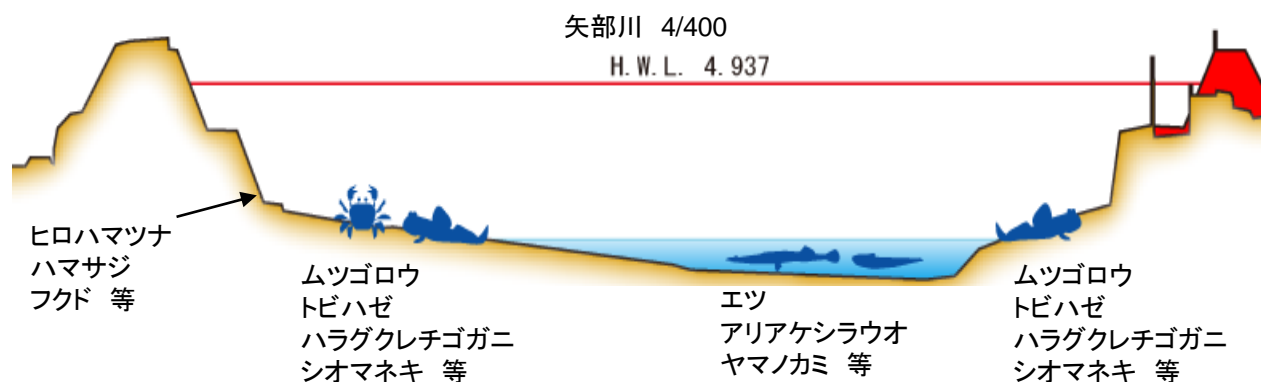


# 1. 対応方針の検討

## 1－(1) 河川環境(政策目標:河川環境の保全)

### 1－(1)－① 下流部

- ・目 標:有明海特有の貴重な汽水環境の保全(現状維持)
- ・対応概要:汽水環境を保全するため、河川改修や河川維持工事による影響は最小限となるよう配慮する。
- ・対応内容:
  - ・高潮堤防は、堤内側に築堤するため、汽水域への影響は小さいと考えられるが、施工時には濁水・土砂の流出に配慮するなど、汽水環境の保全に努める。
  - ・河川維持工事(除草、修繕等)においては、環境調査結果を活用するとともに、必要に応じ学識者から助言を受ける等、汽水環境の保全に努める。



#### 【対応方針】 <下流部>

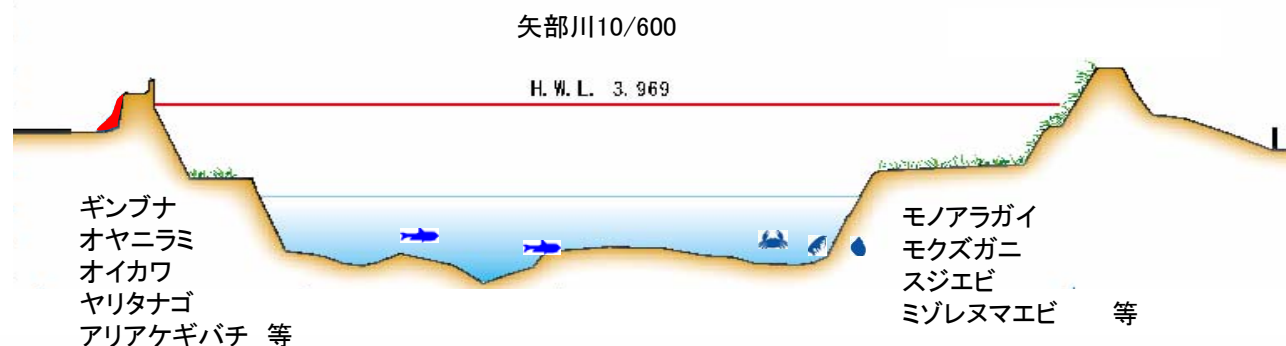
工事の実施においては、汽水域への影響を及ぼさないよう、工事中の濁水・土砂の流出に配慮し、環境調査結果等を活用するとともに、必要に応じ学識者から助言を受け実施する。

# 1. 対応方針の検討

## 1－(1) 河川環境(政策目標:河川環境の保全)

### 1－(1)－② 中流部1

- ・目 標:河川環境の保全(現状維持)
- ・対応概要:現状の河川環境を保全するため、河川改修や河川維持工事による影響は最小限となるよう配慮する。
- ・対応内容:
  - ・河川堤防は、堤内側に築堤するため、河川内の動植物の生息環境への影響は小さいと考えられるが、施工時には濁水・土砂の流出に配慮するなど、環境の保全に努める。
  - ・河川維持工事(除草、修繕等)においては、環境調査結果を活用するとともに、必要に応じ学識者から助言を受ける等、河川環境の保全に努める。
  - ・特定外来生物のブラジルチドメグサについては、治水面、環境面の影響を踏まえ、除去する。



ブラジルチドメグサの繁茂状況

#### 【対応方針】 <中流部1>

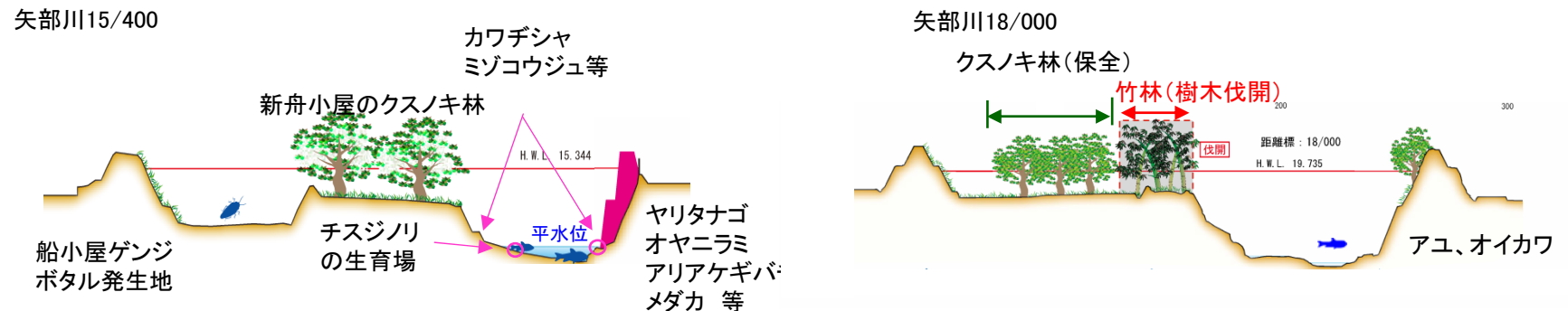
- ・工事の実施においては、湛水域への影響を及ぼさないよう、工事中の濁水・土砂の流出に配慮し、環境調査等を活用するとともに、必要に応じ学識者から助言を受け実施する。
- ・ブラジルチドメグサの除去については、治水面、環境面の影響を踏まえ、除去する。

# 1. 対応方針の検討

## 1- (1) 河川環境(政策目標:河川環境の保全)

### 1- (1)-③ 中流部2

- ・目 標:瀬・淵が連続する良好な河川環境の保全(現状維持)
- ・対応概要:瀬や淵が連続する河川環境を保全するため、河川改修や河川維持工事による影響は最小限となるよう配慮する。
- ・対応内容:
  - ・河川堤防は、平水位以上での築堤のため、瀬や淵への影響は小さいと考えられるが、施工時には濁水・土砂の流出に配慮するなど、良好な河川環境の保全に努める。
  - ・樹木伐開は水際部の竹林の一部であり、急激な環境の変化を回避するため、生態系に配慮した時期に段階的な必要最低限の伐開を行う。
  - ・河川維持工事(除草、修繕等)においては、環境調査結果を活用するとともに、必要に応じ学識者から助言を受ける等、良好な河川環境の保全に努める。



#### 【対応方針】 <中流部2>

- ・工事の実施においては、瀬や淵への影響を及ぼさないよう、工事中の濁水・土砂の流出に配慮し、環境調査結果等を活用するとともに、必要に応じ学識者から助言を受け実施する。
- ・樹木伐開については、生態系に配慮した時期に段階的に必要最低限の樹木伐開を行う。

# 1. 対応方針の検討

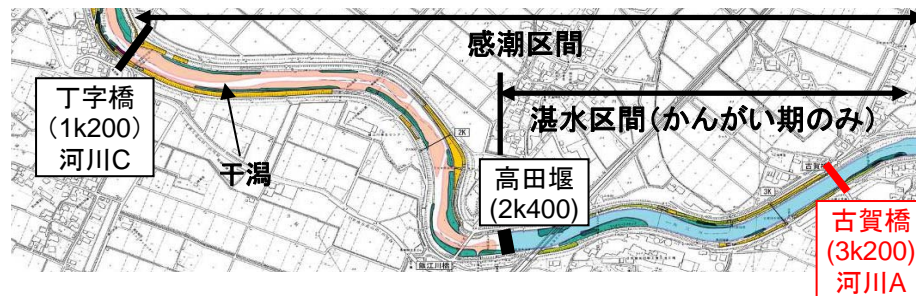
## 1-(2) 水質(政策目標:水質の保全及び改善)

### ■ 飯江川 古賀橋地点

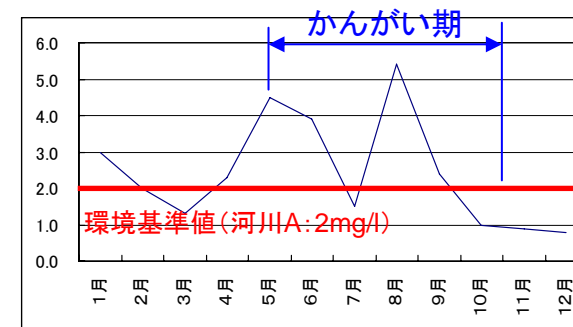
・課題 : 環境基準値(A類型:BOD2mg/l)を満足していない

(原因分析)

●水質観測地点古賀橋は感潮区間であるが、かんがい期(5~10月)のみ下流高田堰の操作により湛水区間となる。



●かんがい期は湛水の影響で環境基準値を上回っている状況。



古賀橋の水質経月変化(平成21年)

●農業用水の取水障害、魚の斃死、悪臭等の被害は生じておらず、地元からの苦情や水質改善の要望は特にはない。

・古賀橋は環境基準値を満足していないが、取水障害や魚の斃死、悪臭などの被害はなく、地元からの水質改善の要望はないことから、ハード整備による対応はせず、水質に関しては矢部川全川で対応方針を検討することとする。



# 1. 対応方針の検討

## 1-(2) 水質(政策目標:水質の保全及び改善)

### ■ 飯江川 古賀橋地点 (矢部川の全川的な取り組みとして)

- ・目 標:水質の保全及び改善
- ・対応概要:水質に対する意識向上と啓発を推進する。
- ・対応内容:
  - ・水質改善に向けた啓発活動を既存の水質汚濁対策連絡協議会等を活用しながら推進する。
  - ・河川の水質調査結果を公表していくとともに、出前講座等を活用するなど、地域の意識向上を図る。
  - ・水質調査結果の蓄積を行い、関係機関と情報共有等の連携を促進する。



協議会開催状況



水質に関する資料



水生生物調査状況

### 【対応方針】

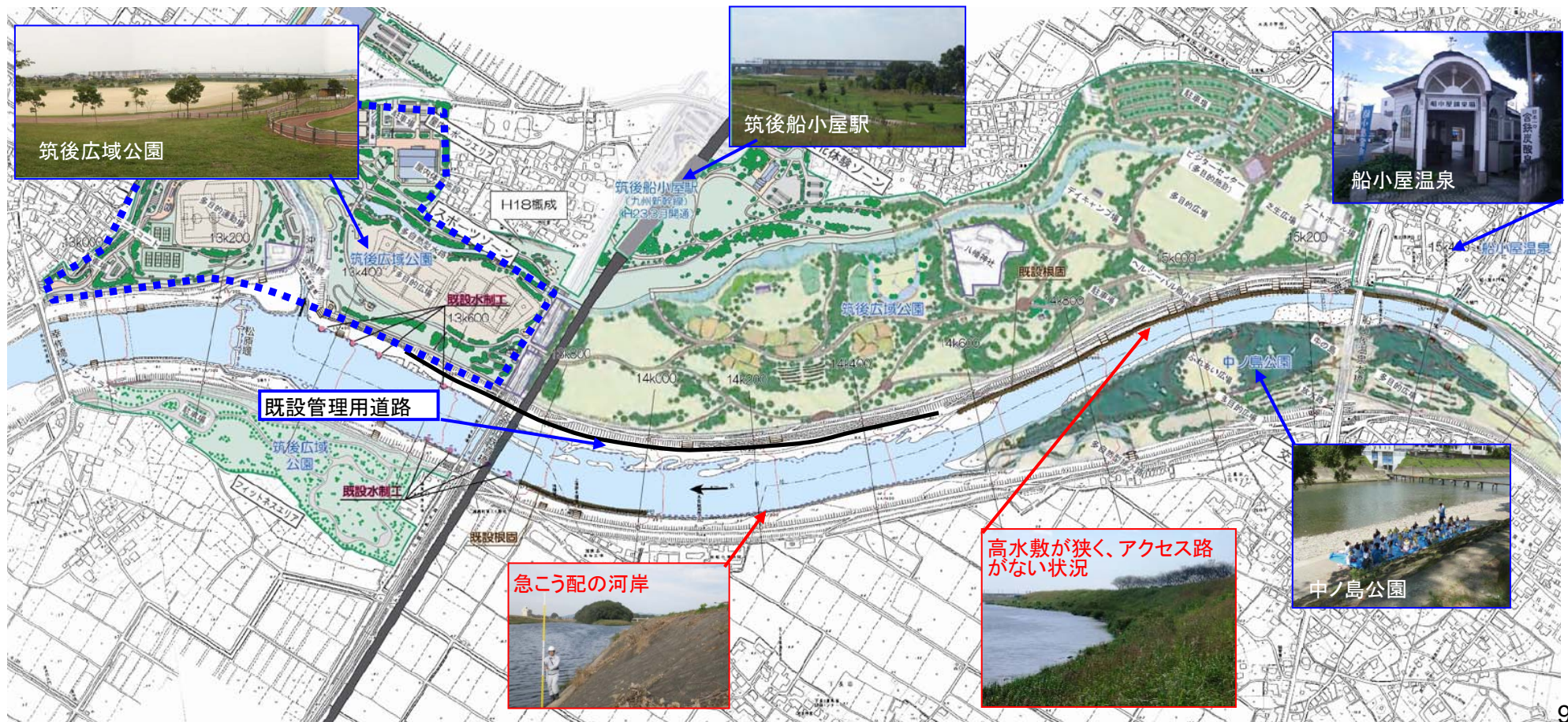
矢部川全川において、関係機関と連携を図りながら、水質保全及び改善に向けた地域の意識向上・啓発を推進する。

# 1. 対応方針の検討

## 1-(3) 河川利用(政策目標:河川利用の安全性・利便性の向上)

### ■ 中流部1、中流部2

**課題:**中流部1、2は、船小屋温泉や中ノ島公園があり、河川利用が多い場所である。背後地には、平成23年3月に九州新幹線「筑後船小屋駅」が開通するとともに、平成23年春に「筑後広域公園」が完成予定であり、今後河川利用者が増大すると予想されるが、河川利用における安全性・利便性が確保されていない



# 1. 対応方針の検討

## 1-(3) 河川利用(政策目標:河川利用の安全性・利便性の向上)

### ■ 中流部1、中流部2

環境対策案		【ハード対策】	【ソフト対策】
対策概要		・総合水系環境整備事業により、河川利用の安全性・利便性の向上を図る。	・関係機関と連携し、安全性、利便性の向上を図る。
対策内容		・河川内を安全に往き来できる管理用道路を整備 ・外来種及び塵芥処理を容易にするとともに、安全に水面利用が可能となる塵芥荷揚場の整備	・河川利用上の安全講習会等を実施。 ・河川内に案内誘導等の看板を整備。
評価項目	河川管理施設の維持管理	● 管理用通路や塵芥荷揚場等の整備により、維持管理の高度化・効率化が期待できる。	△ 現状の維持管理に変化なし。
	河川環境の保全	● 塵芥荷揚場整備により、ブラジルチドメグサ等の外来種及び塵芥の処理作業が容易になる。 ● 代替案の検討時に、河川環境への影響の小さい工法を選定。	△ 現状の河川環境に変化なし。
	河川利用の安全性・利便性の向上	● 管理用通路や塵芥処理荷揚場等により、河川利用の安全性・利便性の向上が期待できる。	△ 意識向上は期待できるが、安全性の向上に直接的に結びつかない。
	実現性	● 関係機関等との連携・協力で実現可能。	● 関係機関等との連携・協力で実現可能。
	持続性	● 地域が主体的に維持管理を行うことにより、持続性は高くなる。	● 地域が主体的に取り組むことにより、持続性は高くなる。
	地域社会への影響	● 自治体のまちづくりと連携して実施することで地域振興に貢献 ● 周辺の集客施設等を結ぶ管理用通路を整備することで、周辺施設との相乗効果を期待。	× 地域振興効果は少ない。
	コスト	△ 整備に伴う費用についてはトータルコストの低い工法を選定。	● 費用は小さい。
総合的な評価		● 採用 ・河川利用の安全性・利便性の向上とともに、河川管理の高度化・効率化が可能。 ・中ノ島公園や筑後船小屋駅、広域公園など周辺環境と相まって地域の魅力向上につながり、今後の河川利用の増加も期待。	△ コストは少なく、啓発活動等は可能であるが、「安全性、利便性の向上」に直接的に結びつかず、地域振興効果は少ない。

### 【対応方針】 <中流部1、2>

河川管理上及び河川利用上の現状と課題を把握した上で、総合水系環境整備事業にて河川利用の安全性・利便性の向上を図る。また、ハード対策に加え、河川利用の安全性・利便性の更なる向上を図るため、必要に応じてソフト対策も関係機関と連携して進めていく。

# 1. 対応方針の検討

## 1-(4) 対応方針のまとめ

中流部では、今後さらに多くの河川利用が見込まれるが、アクセス道路がないなどの課題があり、ハード対策が必要であるため、具体的な対応として、総合水系環境整備事業を実施する。整備にあたっては、課題が集中している船小屋地区を対象とする。

	下流部	中流部1	中流部2
河川環境	汽水水域の保全	湛水域の保全	瀬と淵の保全
水質	地域の意識向上、啓発を推進		
河川利用	—	総合水系環境整備事業による 河川利用の安全性・利便性の向上	

### 3. 第4回矢部川学識者懇談会での審議内容について

#### 【環境の目標に対する対応方針の検討フロー】

